



新小山市民病院ニュースレター

Shin-oyama City Hospital News letter

Vol.32

1 副院長挨拶 ～ コロナ禍の外科医療について ～

国内に新型コロナ感染が広がった2020年2月以降、いまだに情報不足と医療崩壊が懸念されています。当初、現場の外科医が直面したのは、手術を延期すべきか否かの判断でした。ウイルスの病態が不明で外科手術への影響がわからず、手探り状態であったためです。手術患者の感染の有無すら未確認な状況でした。感染が拡大する中、感染防御の砦となる「個人防護具（PPE）」の不足と充足が困難であることが判明し、患者安全の確保、医療者の曝露防止、院内感染対策優先の方針から不急の手術の延期あるいは中止を考慮せざるを得なくなりました。そうした中でも、心筋梗塞、脳血管障害、汎発性腹膜炎、致死的外傷のような生死に直結する緊急度の高い症例や進行がん症例の手術を控えるわけにはいきませんでした。加えて個々の患者の病態や地域の感染状況も異なるため、不急の線引きを一律に行う難しさが浮き彫りになったのです。手術を通常モードで決行するのか延期するのか、延期した際の代替治療をどうするかなど、症例ごとに難しい判断が要求され、個々の外科医に多大なストレスがかかっていました。個々の判断を超えた自院の地域での役割や位置付け、感染防御態勢の状況を加味した施設としての決意が求められました。

そんな中、日本外科学会をはじめ外科系学会は2020年4月1日、「新型コロナウイルス陽性および疑い患者に対する外科手術に関する提言」を共同で発出しました。ポイントは、手術にかかわる医療者（外科医、麻酔科医、看護師、医療技術者等）を感染からいかに守るかです。何故なら安全が守られなければ患者や社会に対し十分な外科医療を継続的に提供できないからです。さらに、4月10日に改訂版が公開され、疾病レベルを軽い順にA, B, Cの3段階で分類した外科手術のトリアージの目安が変更されました。こうした提言は現場を預かる外科医、実施医療機関にコロナ時の手術対応のよりどころと安心をもたらしました。

当院では、その時を機会に、特に医療供給体制が逼迫時には一部改変した同行動マニュアルで対応することで、地域医療に穴が開かないような体制とコンセンサスが担保されました。同時に今回の手術室コロナ対応に際し、多くの施設に先んじて、手術時サージカルスモークによる健康被害を軽減するために、電気メスを使用する際の「排煙装置」の整備、「陰圧手術室」の整備も行いました。

この先ウイルスと共存しながら外科医療を進めていく上で、必要最低限は医療資源の確保です。一時期不足していたマスクやフェイスシールド、PPEを十分に確保した上で外科手術を継続すべきです。次なる波に備えながら通常の医療を安全に行うためにも、PPEを十分確保することがこの先も重要になります。この1年間で、幸いにも当院ではcovid陽性患者の手術は経験していませんが、COVID-19に感染した患者の術後経過の影響に関する研究によると、30日在院死亡率は23.8%（268/1128例）と高く、さらに肺合併症を起こした例の死亡率は38.0%（219/577例）と極めて高率だったとの報告もあります。従って、高い術後死亡率と無症候感染者の存在を考慮すると、COVID流行時期に全身麻酔下手術を行う場合、COVID感染を確認する必要があります。

現在当院では手術前全症例にcovid検査を行い、安全を確保しておりますが、偽陰性もあるので、安全に手術対応するには、十分な手術適応と準備がこれからも望まれると考えています。最後に、コロナ禍であっても、「不急な手術はあっても不要な手術はない」ことを勘案し、適宜手術の適正運用していく体制の整備をバージョンアップしていく飽くなき努力が必要であることを付記しておきたいと思います。

令和 3年 3月

新小山市民病院 副院長・外科部長 栗原 克己



目次:

副院長挨拶	1
新任医師紹介	2
連携の会報告	3
お知らせ	4

ハイライト

- 新しく購入した機器を紹介いたします。
- 1月に新任医師が入職いたしましたのでご紹介させていただきます。
- 医療・連携の会開催についての現時点までの報告をさせていただきます。
- 患者支援センターからは、紹介・逆紹介率の報告をさせていただきます。

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。

ポットラック カンファレンス 地域完結型 医療・連携の会

来年度の開催予定日をお知らせいたします。

たくさんのご参加をお待ちしております。

ポットラック カンファレンス

偶数月、第1火曜日
19:15～

オンライン（Zoom）にて開催しております。

4/6, 6/1, 8/3,
10/5, 12/7, 2/1



地域完結型 医療・連携の会 ～ WEBライブセミナー ～

奇数月、第3木曜日
19:15～

次回開催 3/18

5/20, 7/15, 9/16
11/18, 1/20, 3/17



ドクターの紹介 1月採用の医師を紹介します。



形成外科
医員
古川 航多

令和3年1月より新小山市市民病院形成外科に赴任いたしました古川 航多（ふるかわ こうた）と申します。徳島大学を卒業後、さいたま市民医療センターで初期研修を行い、令和2年に自治医科大学形成外科へ入局しました。

形成外科は生まれつきあるいはケガによる変形などを改善し、生活の質を向上させる科です。眼瞼下垂から爪の変形まで、文字通り頭からつま先まで、幅広い診療を行っています。形成外科領域でお困りのことがありましたら、ご相談いただければ幸いです。

慣れない環境でご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

第27回、第28回地域完結型医療・連携の会 WEBライブセミナー

当院で 9月17日（木）及び11月19日（木）に「地域完結型医療・連携の会WEBライブセミナー」を行いました。

会場では、感染対策を徹底し、各々が注意を払いセミナーを実施しました。各回とも、WEBと会場参加で同時に行うハイブリット形式により、座長進行のもと担当科からの報告が行われさまざまな意見交換が行われました。

Zoom参加者からは、「移動がなくて良い」、「症例報告の音声、映像は問題ない」等の声が聞かれましたが、一方で、「以前のように会場で顔をあわせ、意見を交わしたい」との意見もありました。

みなさまのご意見をもとに改善を加え、コロナ禍での状況を鑑み、「地域完結型医療・連携の会セミナー」を行いますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。

なお、1月21日（木）に予定していましたが「第29回地域完結型医療・連携の会」は、3月18日（木）に延期となりましたので、皆様の参加をお待ちしております。

【第27回地域完結型医療・連携の会WEBライブセミナー】

・座長 田野副院長

・症例報告者

消化器内科 関口医師

糖尿病・代謝内科 武井医師

耳鼻咽喉科 山内医師

・院外参加者

WEB 23名、会場 3名





【第28回地域完結型医療・連携の会WEBライブセミナー】

・座長 川上副院長

・症例報告者

神経内科 亀田医師

形成外科 幡手医師

・院外参加者

WEB 19名、会場参加 2名



WEBと会場参加で同時に行うハイブリット形式による担当科からの報告と意見交換の様子



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関するこ
と・MSWに連絡・その他、外来
患者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。

地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

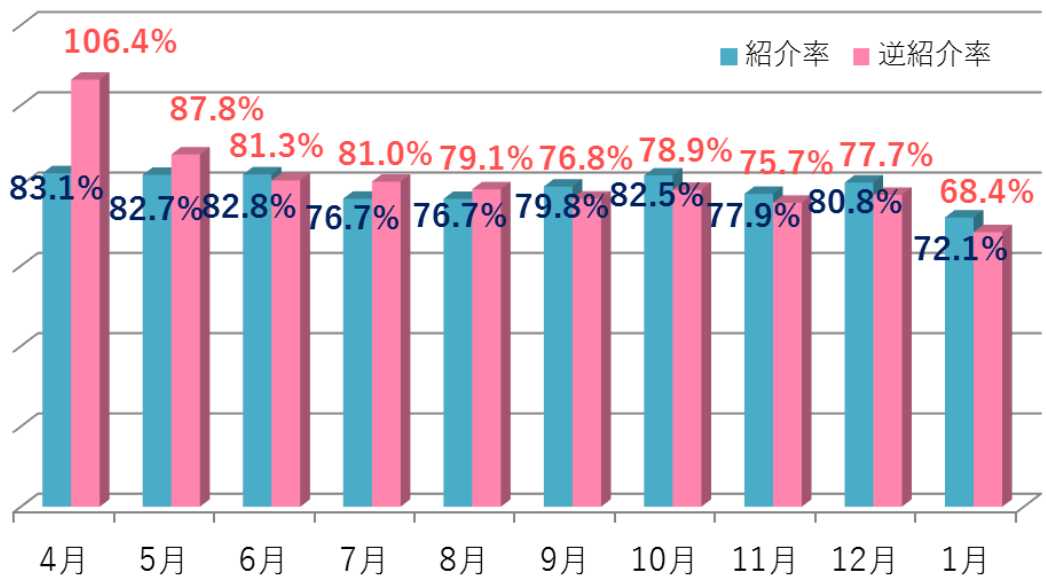
Facebook

<https://www.facebook.com/shin.oyama.city.hospital>



患者支援センターからのお知らせ

いつも当院運営にご理解・ご協力頂きありがとうございます。



新型コロナ疑いの紹介は必ずご連絡を！

～ 新型コロナウイルス関連機器の紹介 ～



～ ルミパルス（抗原定量法）～

化学発光酵素免疫側定法により、COVID-19抗原量を高感度かつ定量的に測定する機器ルミパルスを導入いたしました。約45分で測定でき、鼻咽頭ぬぐい液にて検査施行しております。

～ Smart Gene（RT-PCR法）～

蛍光標識プローブ（Qプローブ）を用いたRT-PCR法です。テストカートリッジ内に測定に必要なすべての試薬が含有されていて、RNAの抽出精製は必要ありません。前処理不要の1ステップ測定で、滴下から約60分で測定できます。鼻咽頭ぬぐい液にて検査しています。



～ 紫外線照射装置（ムーンビーム）～

この装置は無人の室内で数分間照射することで数メートル四方のウイルスや菌を除菌します。新型コロナウイルスはもちろんのこと、他のウイルス等の除菌にも使用できるため、病室や備品、ベッドエリアを十分に消毒・殺菌しています。

